

平成30年3月 教育委員会会議録(要旨)【3月28日(水)】

<p>〔開会の宣告〕 遠藤教育長</p> <p>〔会議の成立〕 遠藤教育長</p> <p>〔公開の審議〕 遠藤教育長</p> <p>遠藤教育長</p>	<p>平成30年3月定例教育委員会会議を開会する。</p> <p>本日は、私の他5人の委員が出席しているので、この会議は成立する。 会議録署名人は、森委員と私とする。</p> <p>本日の会議日程について、協議(1)については、「教育施策の意思決定過程中的案件」に該当し、報告(3)については、「正式公表前の案件」に該当することから、会議規則第13条に基づき非公開の審議が適当と考えるが、協議(1)及び報告(3)について、非公開に賛成の委員は、挙手をお願いする。</p> <p>(全員挙手)</p> <p>全員賛成により、協議(1)及び報告(3)については、非公開とする。</p>				
<p>日程第1 前回会議録承認</p>					
<p>遠藤教育長</p> <p>遠藤教育長</p>	<p>2月6日開催の平成30年2月定例教育委員会会議録、及び2月15日開催の平成30年第1回臨時教育委員会会議録を承認することに異議があるか。</p> <p>(異議なしの声)</p> <p>異議なしと認め、前回会議録を承認する。</p>				
<p>日程第2 事務局報告</p>					
<p>(1)事業・行事等報告について</p> <p>前回会議(H30.2.6)以降の事業・行事報告(主なもの)</p> <table border="1" data-bbox="213 1912 1383 2029"> <tr> <td data-bbox="213 1912 564 1989">2月 6日(火)</td> <td data-bbox="564 1912 1383 1989">第24回タウンミーティング</td> </tr> <tr> <td data-bbox="213 1989 564 2029">14日(水)</td> <td data-bbox="564 1989 1383 2029">教師塾「きらり」閉講式</td> </tr> </table>		2月 6日(火)	第24回タウンミーティング	14日(水)	教師塾「きらり」閉講式
2月 6日(火)	第24回タウンミーティング				
14日(水)	教師塾「きらり」閉講式				

平成30年3月 教育委員会会議録(要旨)【3月28日(水)】

16日(金)	第5回校長・園長会
23日(金)	平成30年第1回定例会市議会(～3月26日)
3月 1日(木)	市立高等学校卒業式
2日(金)	総合ビジネス専門学校卒業式
3日(土)	河内小学校白浜分校閉校式
10日(土)	市立中学校卒業式
20日(火)	市立幼稚園卒園式
22日(木)	市立小学校卒業式
23日(金)	市立幼稚園、小・中学校、高等学校他 修了式・終業式
今後の予定(主なもの)	
3月29日(木)	総合教育会議 第3回臨時教育委員会会議
4月 9日(月)	市立高等学校、平成さくら支援学校入学式 市立幼稚園、小中学校、高校、支援学校、専門学校始業式
10日(火)	市立中学校、総合ビジネス専門学校入学式
11日(水)	市立小学校入学式
12日(木)	市立幼稚園入園式
日程第3 議 事	
・議第22号 熊本市教育委員会事務局内部組織規則の一部改正について	
西山委員	《上村教育政策課長 提出理由説明》 資料3-7にある「かい」とは何か。
上村課長	行政用語で、外部にある組織を一般的に「かい」という名称で呼んでいたが、平成29年度以降、かい組織の表現が「室」へ変更されており、今回「全国高校総体推進室」の設置にあたり、本規則においても、別表中の「かい」を「室」に改めるものである。
	〔採決〕 【原案どおり承認された】

<p>・議第23号 熊本市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の一部改正について</p>	
	<p>《上村教育政策課長 提出理由説明》</p> <p>〔採決〕 【原案どおり承認された】</p>
<p>・議第24号 熊本市教育センター条例施行規則の一部改正について</p>	
	<p>《上村教育政策課長 提出理由説明》</p>
森委員	<p>第4条で今回新たに設置された「教育情報室」の具体的な仕事内容はどのようなものか。</p>
上村課長	<p>学校現場におけるICT環境の整備、教育委員会における教育情報の統括、計画・管理などを行う。また、eネットの基盤整備や管理機器の調達など、これまで教育センターや各課で行ってきたことを一括して教育情報室で行うこととしている。</p>
遠藤教育長	<p>まず、来年度から学校に導入するICT機器等の維持管理が中心となると考えられる。</p>
森委員	<p>これまで教育センターで行っておらず、今後この教育情報室に移管することは何か。</p>
中村学務課長	<p>これまで学務課で、教員用やパソコン教室用のパソコン等の導入・更新を担ってきたが、今後は教育情報室で、一括的に更新等を行っていく。</p>
遠藤教育長	<p>室の規模はどのようなものか。</p>
上村課長	<p>6名体制とし、主幹級の職員を室長に置き、指導主事2名、事務2名、再任用の技師1名を配置する。</p>

<p>・議第25号 熊本市立野外教育施設条例施行規則の一部改正について</p>	
	<p>《上村教育政策課長 提出理由説明》</p>
西山委員	<p>「自然の家」を「金峰山少年自然の家」と変更するのは、他に自然の家が設置される予定があるからか。</p>
上村課長	<p>「金峰山少年自然の家」が正式名称であり、今回の規則改正を機に変更するもの。</p>
	<p>〔採決〕 【原案どおり承認された】</p>
<p>・議第26号 熊本市立小中学校の管理運営に関する規則の一部改正について</p>	
	<p>《中村学務課長 提出理由説明》</p>
西山委員	<p>教職員が土曜日に出勤する場合には、休日出勤扱いか。</p>
木櫛教職員課長	<p>土曜日は週休日ということで、勤務時間が割り振られていない日である。土曜授業を行う場合は、勤務時間の割り振りを変更し、他の曜日にその分の休みを取るということになる。休日出勤ではあるが、振替ないし勤務時間の割り振りの変更を行って対応する。</p>
西山委員	<p>勤務する大学では、このような勤務について休日手当の支給を要望する教職員組合と、振替休日の取得を求める大学との交渉の末、原則は振替休日を取得し、対応が難しい場合は休日手当を支給することとなった。このような混乱は起こらないか。</p>
木櫛課長	<p>元々教員には、教職調整額が支給されており、勤務時間を超過したために手当を支給するという概念はなく、土曜日の出勤に対して手当が出るということにはならない。振替日に休みが取れないとしても、結果的に勤務をしたということになるだけであるが、そこはご理解いただけるものと思われる。</p> <p>一般の事務職等で時間外勤務が発生した場合、振替をとっていただき、その振替が取れなかった場合には、時間外勤務手当</p>

日程第5 報告

・報告(1) 平成30年第1回定例市議会報告について

《松永総括審議員・橋爪学校教育部長 報告》

西山委員

スクールソーシャルワーカー(以下、SSW)の説明で、5人の退職者があったということであったが、その理由は何か。

橋爪部長

総合支援課長と私とで面談を行い、抱えているケース数が多かったためであることがわかった。相談件数の拡充を図っていた結果、1ケースあたりに割くことができる時間が少なくなったため、相談者の状況改善が思うように進まないと感じるストレスが大きくなってしまった。来年度から、ケース数を減らすことを提案したが、少し休みを取りたいとのことであった。来年度からは、そのようなことに配慮したうえで、活動依頼を行っていきたいと考えている。

西山委員

限られた時間の中で、扱える件数以上の件数の依頼があり、加重負担になったということか。

橋爪部長

SSWの持ち時間で扱う理想の件数よりも多すぎたということである。

西山委員

その整理はどこがすべきか。

橋爪部長

教育委員会において学校から依頼があがってくるケースをふるいにかけて、本当にSSWに依頼すべき案件かを精査する必要がある。学校側も全てについて依頼をするのではなく、スクールカウンセラーとも連携を取っていけるようにしていくべきであると考えます。

徳永総合支援課長

現在は、教育相談室に籍を置くSSWが、学校からの依頼に基づき、学校に派遣されている。他都市の例などを見て、SSWが常時学校にいて、早期に子どもたちや家庭に関わるほうが、SSWとしても充実感を持って関わることができると考え、平成30年度はモデル的に2つの中学校校区にSSWを配置し、

平成30年3月 教育委員会会議録(要旨)【3月28日(水)】

<p>小屋松委員</p>	<p>成果が上がるかを検証することとしている。その状況から、配置型を広げることを検討していき、より充実したソーシャルワークを行っていきたいと考えている。</p>
<p>徳永課長</p>	<p>SSWになる方というのはどのような方で、年齢構成はどのくらいか。</p>
<p>徳永課長</p>	<p>本市においては、精神保健福祉士と社会福祉士の資格を持った方をSSWとして採用している。現在本市で採用しているSSWは、中堅で経験もあり、専門的にも知識の高いおおよそ40代のSSWを中心に活動いただいているところである。</p>
<p>小屋松委員</p>	<p>資格要件があり、採用するのは大変ではないか。また、県外在住の方も採用しているのか。</p>
<p>徳永課長</p>	<p>今は県外からの採用者はいない。採用に関しては、県外でも本市で勤務可能な方がいないか、関係機関等にも問い合わせを行っているところである。</p>
<p>泉委員</p>	<p>地域にもソーシャルワーカーがおられると思うが、連携し、地域のソーシャルワーカーにも任せることができると負担感が減るのではないか。</p>
<p>徳永課長</p>	<p>各区の子ども保健課や児童相談所に担当のワーカーがいて、定期的にSSWや各学校の生徒指導担当者と連携会議を行っている。各区のワーカーは赤ちゃんの頃からの関わりを持っていることが多いので、密に連携をしながら、学校での生活状況を見て、必要に応じて各区や児童相談所につなぐことに取り組んでいるところである。しかし、支援が必要な子どもや家庭が増えている現状があり、更にSSWの人数の充実などを図っていきたいと考えているところである。</p>
<p>西山委員</p>	<p>資料10-4に「ICTを活用した授業に長けた教員を推進リーダーとして、教材研究や教員研修を行う」とあるが、各学校に何人くらいそのような先生はいるのか。</p>
<p>長尾教育センター所長</p>	<p>現在具体的な人数の把握はできていないが、毎年教育センターで行う研究員活動で、各教科等で専門的な研究をする部会の</p>

平成30年3月 教育委員会会議録(要旨)【3月28日(水)】

西山委員	<p>中に「情報化部会」があり、実際にICTを授業の中で活用している先生方がいる。また、ICTの研究指定校があり、そこでICTを授業の中で活用している先生方もいる。そのような方々から、推進リーダーとして活躍できるような方を育て、人選しながら、そのような場を拡充していきたいと考えている。</p> <p>このような方を育て、少なくとも各校に1名配置できるような人事配置をしてほしいと思う。</p>
<p>・報告(2) 平成31年度学校事務職の採用について</p>	
森委員	<p>《木櫛教職員課長 報告》</p> <p>平成31年度の採用予定者は5人ということだが、退職者の年齢構成や業務量等を勘案した長期的な採用計画はどうなっているか。</p>
木櫛課長	<p>原則として1校に1名配置することが基準であり、本市の義務制の定数は157名である。現状で欠員率が約20%あり、この欠員率を改善していきたいが、5人というこのままの計画でいくと、今後5年程度は今の欠員率が続く予定である。</p>
<p>・報告(4) 平成29年度学校評価について</p>	
西山委員	<p>《塩津指導課長 報告》</p> <p>ICT機器の活用によるわかりやすい授業の工夫という説明があったが、具体的にどのような活用が行われているか。</p>
塩津課長	<p>現在のところ、各学校で購入した大型モニターと教育委員会で配布しているパソコンをつないで、動画を見せたりしているが、来年度予算では、全ての教室に電子黒板、実物投影機等が導入されるため、その活用によってよりわかりやすく授業が進められる。また、タブレット等が導入されると、能動的な作業の中で、ICTを使うことができると考えられる。</p>

<p>西山委員</p>	<p>ICTは上手に活用しなければ、逆効果になる場合がある。大学の講義はほとんどがパワーポイントを使ったものであり、学生が寝てしまうことが多い。また、パワーポイントの進め方が早いと、ノートが取れないとの苦情が出ることがあり、板書の方の評判が良いという状況である。使い方をよく考え、効果が上がるよう工夫する必要がある。</p>
<p>出川委員</p>	<p>資料13-4「学校は、一人一人の子どもを大切にした指導や対応ができていますか。」や、資料13-8「先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。」を見ると、教職員が「そう思う」、「どちらかといえば、そう思う」割合(約97~98%)に比べ、児童・生徒の割合(約80~93%)が低い。このように、教職員は高く、児童生徒は低い項目がいくつか見られるので、この差は何故か、どのように子どもに伝えていけばいいのかを考える必要があると思う。</p>
<p>塩津課長</p>	<p>ご指摘があった「先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。」について、先生方は努力をしているが、それに比べて児童生徒がそう思う割合は少ないということは課題であり、授業を改善しなければならないと思う。このようなことが、この学校評価に出ており、各課で分析を行い、課題を共有し、改善を検討するものとして、この評価を捉えている。</p>
<p>出川委員</p>	<p>どの子どもがどのような評価をしたということはわかるのか。成績等とのクロス集計ができれば、改善の仕方が検討できるが、全体的にしかわからないのであれば、改善が難しいのではないか。</p>
<p>塩津課長</p>	<p>アンケートであり、誰がどのように回答したかはわからない。全国学力・学習状況調査の中には、同じような調査項目があり、クロス集計が可能である。その相関関係を見て改善につなげることができる。但し、全国学力調査は、小学6年生と中学3年生に限定されていることから、全体の状況を見るには、この調査によることになる。学年やクラスによる傾向はわかるため、それを参考に、例えば授業づくりについて、そう思う子どもの</p>

<p>西山委員</p>	<p>割合が低い場合には配慮を行う必要があると感じており、そのことについて学校もそのような認識を持っている状況である。</p> <p>毎学期、大学の授業の評価を受けているが、約1割は批判的な意見があるもので、この場合も、児童生徒の「そう思う」割合が9割あれば十分と考える。但し、中学生は、小学生に比べて割合が低いので、中学校でもう少し力を入れる必要があるようだが、教職員の約97%以上が頑張っていると答えているので、良い結果だと思う。</p>
<p>森委員</p>	<p>この資料は市全体についてまとめられており、学校ごとに見るとばらつきがあると思われる。平均よりも数値が低い学校については、指導課や総合支援課等の担当課から、その原因や対応等について、学校に確認や指導等を行っているのか。</p>
<p>塩津課長</p>	<p>この結果については、学校のホームページで公開をすることになっており、それぞれの地域、保護者にこの結果を出し、学校がどのように捉えているかについても学校だより等で伝えている。また、結果が大きく違う学校については、指導課では随時訪問を行う際に、改善への取り組み等について確認や支援を行っている。</p>
<p>森委員</p>	<p>総合支援課はどうか。いじめの問題等で個別に訪問をするなどしているか。</p>
<p>徳永総合支援課長</p>	<p>各学校で、学校評議員会における評議員への課題等の説明、PTA総会等における保護者への説明、ホームページへの掲載、教職員による課題解決に向けた検討等を行っているかと把握しており、総合支援課において学校評価についての個別の指導等は行っていない。</p>
<p>森委員</p>	<p>これだけが指標になるわけではないが、労力をかけて集計したこの結果と、その他の報告等の情報とを合わせて、学校に問題が発生しないようにするために活用できればと考える。</p>
<p>小屋松委員</p>	<p>資料13-8の分析で気になったところがある。「小中学校ともに、教職員の「そう思う」の割合が30～40%程度に留まっている」とあり、この原因は何かという分析を丁寧に行うべ</p>

遠藤教育長	<p>きである。</p> <p>全体的に昨年度より良くなっている項目が多いが、資料13-15「学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。」で、中学校の保護者の評価が大きく下がっているが、何か原因があるか。</p>
山口施設課長	<p>熊本地震後に体育館や運動場の使用ができない小中学校があったが、中学校では部活が盛んであり、特に中学校で部活ができないことに対する不満があったのではないかと考えられる。</p>
遠藤教育長	<p>子どもではなく、保護者の割合だけが下がるのは何故か。</p>
山口課長	<p>地震後は業者が不足し、長い間工事を行っていた。学校に行くといつも足場がかかった状態であり、常に工事中というイメージが植えつけられてしまったのではないかとと思われる。</p>
西山委員	<p>資料13-8に関する、先程の小屋松委員の指摘は重要と思われる。「どちらかといえば、そう思う」という回答が60%で、回答者の本音は、「わかっているが、準備に割く時間がない」ということだと思われるが、どうか。</p>
塩津課長	<p>理想とする授業像というものがあると思われ、それに向けて十分取り組んでいるのかと考えると、「どちらかといえば、そう思う」と答えることになるのかもしれない。今後、少しでも「そう思う」とはっきり答えられるようにしていかなければならないと思う。</p>
西山委員	<p>今後、道徳や英語など、今までより教科が増え、大変な状況であり、自信が持てない科目について、楽しい授業ができるという気持ちまで持てないのではないかとと思われる。</p>
泉委員	<p>資料13-10「子どもは、好き嫌いなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。」で、教職員の「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の割合は高くなく、教職員は子どもたちの基本的な健康状態について心配している状況のようである。これから基本的な健康教育に力を入れなければならないと思う。</p>

<p>森田健康教育課長</p>	<p>このように子どもや親に比べて、教職員の「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の割合が低いことについて、重く受け止めている。教職員は、最近特に睡眠不足の子どもが増えてきているという印象を持っていると聞く。子どもや保護者は睡眠をとっていると思っているが、学校での授業中などの態度から、睡眠不足を感じている教職員が多いようである。保護者への周知も含め、学校を通じて基本的な生活習慣の大事さを伝えていきたいと考えている。</p>
<p>・報告(5) 平成29年度熊本市学校給食調理等業務委託評価報告書について</p>	
<p>小屋松委員</p>	<p>《森田健康教育課長 報告》</p>
<p>森田課長</p>	<p>今後の学校給食については、財政面などから民間委託を増やしていく方向性か。</p>
<p>森田課長</p>	<p>中学校の給食を担当している共同調理場については、全て民間に委託している。小学校について、順次民間委託を実施しており、平成30年度は新たに7校において、民間委託をすることとしている。民間委託について一定の基準を設けており、今後も概ね550食以上の給食を作る小学校については、民間委託を検討していく。現段階で、8校ほどが今後の民間委託の対象となっている。</p>
<p>小屋松委員</p>	<p>教職員も教室で給食を一緒に食べるのか。</p>
<p>森田課長</p>	<p>教職員も教室で一緒に給食を食べ、食育を行う。</p>
<p>西山委員</p>	<p>食中毒を起こさないことが一番大切だと思うが、食材の購入等を含めた管理については、適切に行われていると理解しているか。</p>
<p>森田課長</p>	<p>「学校給食の衛生管理標準マニュアル」という基準があり、これは一般の飲食店の衛生基準よりも厳しいものである。この基準を遵守した上で給食調理を行っており、衛生管理には問題</p>

<p>森委員</p> <p>森田課長</p> <p>森委員</p> <p>森田課長</p>	<p>がないものと考えている。</p> <p>これは、委託先についての評価であるが、直営については、これと同じような検証が毎年行われているのか。</p> <p>直営の給食室については、毎年このような検証は行っていないが、衛生面の基準や職員の体調管理などの守るべき点について、衛生管理の研修や職員への指導を行う中で繰り返し伝えている。このことによって、直営における衛生管理も基準が守られているものとする。</p> <p>以前の話であるが、給食室から火災を起こしたことがあった。民間委託については、毎年このような検証がなされ、結果が良くなければ委託しないといった厳しいチェックにさらされているが、直営の場合はそのような検証体制ではないため、気の緩みがないよう行っていくことが大事である。</p> <p>直営、民間問わず、火の消し忘れや施設の不備、職員の怪我など、ミスから事故に至るまで、その都度学校を通じて健康教育課に報告がある。全施設で共有できるものについては知らせ、常に注意喚起を行っていく。</p>
<p>・報告(6) 平成29年度体力テストの結果について</p>	
<p>出川委員</p> <p>森田課長</p> <p>遠藤教育長</p> <p>森田課長</p>	<p>《森田健康教育課長 報告》</p> <p>20mシャトルランで、どの学年でも基準値を上回っているが、これは特別に何かを行っている結果か。</p> <p>本市の子どもたちの得意種目のようで、以前から数値が高い。何故高いのかという分析はできていないが、熊本市の子どもたちは持久性が高いと捉えている。</p> <p>50m走は遅いようである。</p> <p>持久力が高い一方で、短い時間で早く走ることは得意ではな</p>

<p>西山委員</p> <p>森田課長</p> <p>西山委員</p> <p>森田課長</p> <p>出川委員</p> <p>森田課長</p> <p>出川委員</p> <p>森田課長</p>	<p>いと考えられる。</p> <p>資料15-2に、「1週間の総運動時間」があるが、この総運動時間の中に、体育の時間はどのくらいあるのか。</p> <p>総運動時間の中に、体育の授業時間は含まれていない。ちなみに、体育の授業は週3回・135分である。</p> <p>同じく資料15-2にある、中学の「保健体育の授業は楽しいか」という問いで、全国平均よりも結果が悪いが、何か理由はあるのか。</p> <p>明確な分析はできていないところである。</p> <p>学校別のデータがあり、学校ごとの特徴は把握できるのか。</p> <p>学校別のデータはあるが、全学校の結果を一覧にしたデータは渡していない。学校ごとに結果を返し、各学校で平均との違いなどを確認してもらうことにしている。</p> <p>ポイントが高い学校での取組の報告があると、違う学校が参考にできる。そのようなことは行われているか。</p> <p>資料15-5の「現在の取組と今後の方策」にあることに加え、数値が高い学校の授業の例や、休み時間や放課後における運動の取組の例を事務局で集め、他の学校にフィードバックしていきたい。</p>
<p>・報告(7) 広報広聴関係について</p>	<p>《上村教育政策課長 報告》</p>

平成30年3月 教育委員会会議録(要旨)【3月28日(水)】

〔非公開の審議〕	
日程第4 協議	
	・協議(1) <u>学校改革! 教員の時間創造プログラム(素案)について</u>
	《上村教育政策課長 説明》
日程第5 報告	
	・報告(3) <u>子どもたちの心のケアについて</u>
	《徳永総合支援課長 報告》
〔閉会〕 遠藤教育長	本日の日程は全て終了したので、平成30年3月の定例教育委員会会議を閉会する。